



発行  
鳥取県子ども家庭育み協会  
広報委員会  
第37号

## 令和4年度 県内保育所(園)・認定こども園 実態調査「コロナ禍の保育」

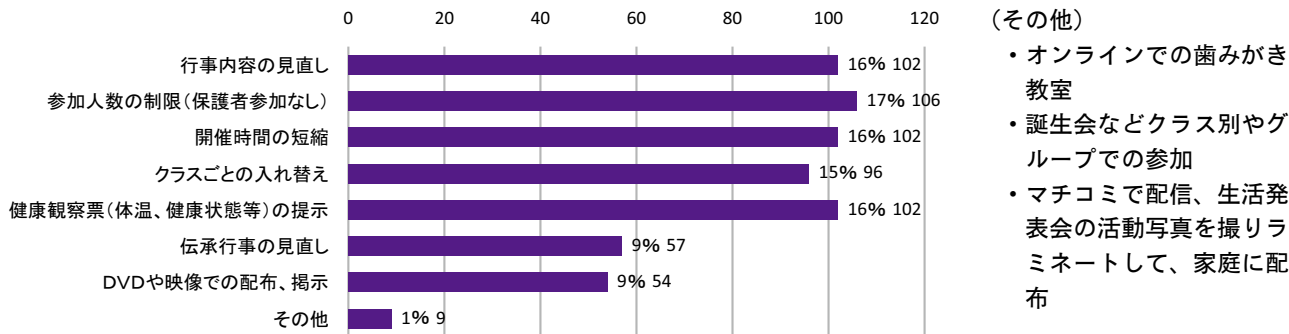
世界的に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、未だ衰えることなく収束に向かいません。不測の事態に、保育現場も一変しました。感染予防対策を行いながら、行事もどう取り組んでいいのか、他所(園)はどう工夫されたのか、困ったことや改善して欲しいことをどう訴えたらいいのか等、様々な制限のなか子どもたちの保育をどのように保障していくか模索されたことと思います。

そこで、本会調査委員会では「コロナ禍の保育」について実態調査を行いました。これもコロナ禍で令和2年に予定されていた実態調査が中止になり、今回4年ぶりの調査です。お忙しい中、106園からご回答をいただきました。第7波前の令和4年6月時点の調査結果であり、現在の状況等と異なる点があるかもしれません。結果からは、各所(園)とも対応に苦慮しながらも、子どもたちの成長を願い、熱心に保育に取り組んでおられる様子がわかりました。自所(園)の取り組みの今後の進め方の参考にしていただければと思います。ご協力ありがとうございました。

(調査委員：田内寛子、川口芽生、金本伸子、坪栄暁子、澤 恵、西村孝太)

### I 行事の工夫について

(1) 新型コロナウイルス感染症防止のため行事にどのような見直しが行われたかお答えください。(複数選択可)



(2) 行事の見直しをした結果、良かった点をお答えください。

- できる形を模索しながら行うことで、保護者からの理解が得られ、園への理解へとつながった。
- ねらいを職員で再確認したり、内容を検討したりして何を育てたいのか話し合うことができた。
- 見直しを行うことで、意図とねらいを職員間で話し合い、より良い内容にするための知恵を出し合うことができた。職員の連携を深めることができた。
- 本来の姿である子ども主体の活動となった。
- 発表会は1クラス1演目にしたため、子どもにも保育士にも負担なく実施することができた。発表会も運動会も保護者がゆったりと観覧することができた。
- これまで慣例としてきた行事を子どもの観点や保育士の働き方改革の視点で見直しできた。
- できないと思っていたことも工夫次第でなんとかなること、逆にこんなこともできるのか、と気づくこともあった。
- 年間の計画を見直し、園内での遊びが充実した。

(3) 行事の見直しをした結果、課題をお答えください。

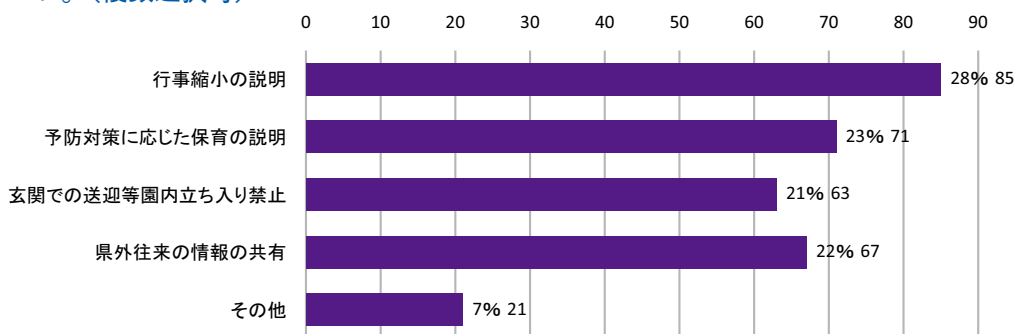
- YouTubeで行事の配信を行ったが、閲覧者はそれほど多くなく準備等大変な割に見てもらえていないと感じた。

- ・クラス別は良い点は多々あるが、保護者が他クラスを見て成長の見通しができていたであろうという点が課題である。
  - ・保護者参加が少なくなり、実践内容が伝わりにくい。保護者がクラス内の友だちや他の保護者を覚えられない。
  - ・保護者の中には、今まで通りの行事実施を希望される方もあり、納得いただける丁寧な説明と代替えの保育の実施についてが課題となった。
  - ・10年かかって積み上げてきた保小連携や地域交流の行事が足掛け3年にわたり、途絶えている。
  - ・多様な人との触れ合いの機会がなくなり、人と関わる経験をどう重ねていくかが課題で、例えば異年齢での活動が難しくなり、縦の繋がりをどう経験していくのか悩む。また、保護者と一緒に取り組む機会がなくなり、少しでも携わってもらえるよう試行錯誤している。
  - ・国や県の方針や基準が変わる度に見直しする必要が出てくる。また、関係者の感染に応じて、中止や延期になるため、いつも気を張っていて休園の基準も見直してほしい。
  - ・日常の様子をお知らせする発信力の必要性。
- (4) 中止や縮小した行事の代わりとして追加で実施した活動やイベントがあればお答えください。
- ・1年生との交流の代わりに暑中見舞いなどのお手紙ごっこ ・中学校とのリモート交流
  - ・夏祭りごっこ・プチ花火大会 ・ハロウィンの仮装パーティー ・かき氷屋さん
  - ・ピクニックごっこ ・玄関でのスライド上映 ・動画配信
  - ・インスタグラムやホームページのブログで普段の保育の様子や子どもたちの姿をこまめに発信する。
  - ・密を避けて、参観週間として1週間の期間を設けた。
  - ・誕生会やお別れ会など映像を撮り、メッセージや出し物を見せあった。
  - ・鏡餅づくりを行い、地域に配布・ちまきの作り方のレシピと笹をセットにして保護者へプレゼント。
  - ・おにぎりデー（白ご飯の代わりにおにぎりを作ってもらい、園内や近場での遠足ごっこ）
- (5) 保幼小連携でどんな工夫をされたのかお答えください。
- ・小学校から学校での生活の様子やメッセージのDVD鑑賞 ・年長児と1年生間で手紙の交換
  - ・少人数で学校へ出かける（授業参観、休憩時間に遊ぶなど） ・教室内からリモート参加
  - ・小学校見学を小グループに分けて実施し、給食の様子は事前にビデオ撮りをしてくださり、説明をいただいた。
  - ・1年生担任と年長担任が集まり、情報交換して目標を決め、アプローチプログラムを作成しているが、コロナ禍では集まることができず、当番園が中心となり電話やメールで連絡を取り合って、アプローチプログラムの見直しをした。
  - ・園と学校だよりを配布しあう ・書面や電話で途切らさず継続している。
  - ・コロナ感染者の状況を共有（兄弟がいるため） ・就学児の通級体験入学の実施。
  - ・校長、園長会実施 ・職員同士でZoom会議
- (6) 食育活動・クッキングでどんな工夫をされたのかお答えください。
- ・大人が作るころや調理過程の一部を見せたり、匂いや音、色や形の変化を味わう機会を多く作った。
  - ・豆の筋取り、筍の皮むきなど下ごしらえの段階に、子どもたちが関われるようにした。また菜園や地域で採れた作物を家庭に持ち帰り、食育活動の理解につなげた。
  - ・毎月、食育の日に給食室から調理の先生に行事食の由来や食べ物の話をしてもらった。
  - ・クラス単位で計画し、個別でできるようラップや個別容器を用意するなどして、無理なく実施した。
  - ・あえて特別なことをすることだけが食育ではないので、普段していること、食事の時の声かけなど、みんなで改めて話し合った。
  - ・模擬体験。例 ちまき作りでは、笹取り→笹の掃除→小麦粉粘土と笹でちまき作りの模擬体験→おやつにちまきを食るといった一連の体験を活動に取り入れた。
  - ・給食室から職員が出て来て、透明ボウル等を使ってこねたり、目の前で調理を行った。また、当日までに紙芝居や絵本を通して、食材を知る工夫を行った。
  - ・絵本のごちそうの日を毎月設け、絵本の読み聞かせと、関連したごちそうを食べる。
  - ・切り干し大根作り、カレー作り等、後で加熱するものは比較的安心してできた。

【考察】 当たり前の日常がコロナ禍で一変し、各保育所（園）・こども園で試行錯誤され、行事の見直し等の良い機会となったとの意見が多かった。子どもにとって必要なことは何かと話し合ったり、ねらいの再確認をしたりと子ども主体の保育に立ち返るきっかけになったことは大きい。食育活動、代替行事、保幼小連携等、工夫で乗り越えようとする現場のエネルギーを感じる。対面が叶わないのであれば、ICTを活用するなどいかに園から情報発信を充実させるか、また保護者同士のつながりを保障するのが課題である。

## II 新型コロナウイルス感染症予防、対応について

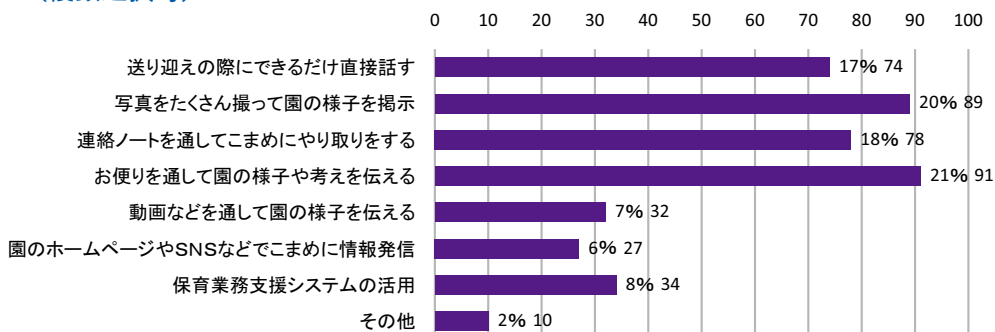
(1) 新型コロナウイルス感染症予防のために保護者等に対して苦慮したこと、難しかったことをお答えください。(複数選択可)



(その他)

- ・PCR検査の情報が来ない保護者もあった
- ・マスクの着用の必要性を理解してもらえないこと
- ・家族が発熱、検査対象になっても連絡なく登園
- ・体調不良の時の対応（自宅療養やお迎えの要請のお願いなど）
- ・協力的な保護者さんで苦慮したことはない

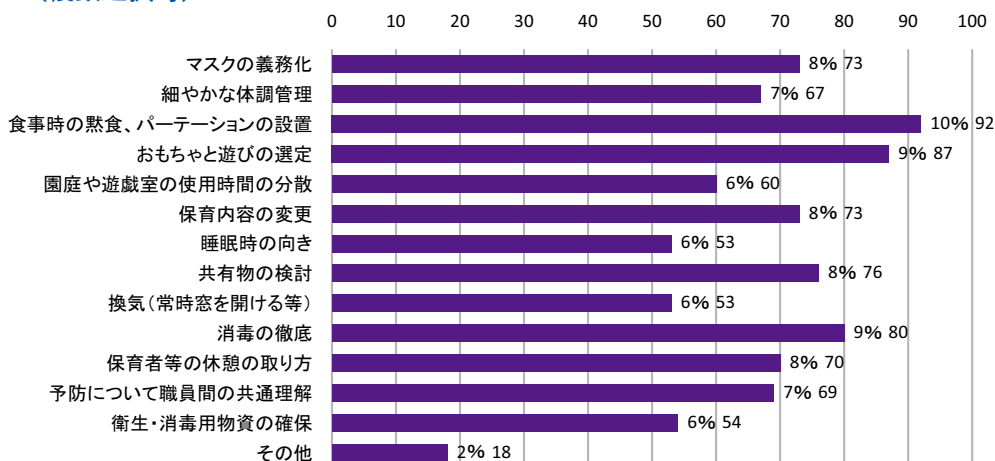
(2) 新型コロナ感染症予防のために保護者に園の考え、対応をより丁寧に伝える工夫をお答えください。(複数選択可)



(その他)

- ・玄関掲示の充実
- ・町のケーブルテレビで行事の様子を伝える
- ・送迎時はあまり話ができないので、希望の方には時間をとり、話をする場を設ける

(3) 新型コロナウイルス感染症予防のために日常の保育で苦慮したこと、難しかったことをお答えください。(複数選択可)



(その他)

- ・職員の勤務体制
- ・急なお休みとなる職員のカバー
- ・長時間保育におけるクラスごとの分散

(4) 貴園の関係者に感染の疑いがあり、感染確認されてから、PCR検査実施等、休園に至るまで、また休園後に苦慮されたことをお答えください。

- ・夕方に陽性者が発覚し、それからの対応の手順に時間がかかったため、夜遅くまでの勤務となった。
- ・保健所や市役所とのやり取りで、保護者の確認が必要だったが、連絡が取れない家庭がありとても困った。
- ・当初より開園日が早まり、給食対応に苦慮した。
- ・マスクのできない未満児がワンルームで過ごしているため、全員が検査対象となってしまう。その中で、どこまで濃厚接触者とするかの判断。また、職員も同様な状況であるのに、検査を実施する側にならないといけない。その連絡も園でしなくてはいけない点など。
- ・コロナの陽性が判明するのは曜日、時間にかかわらずあるので勤務時間外に検査や保護者への連絡をしなくてはならなかった。1人判明すれば全体で休園となるので就労している保護者が多いので負担が大きかった。



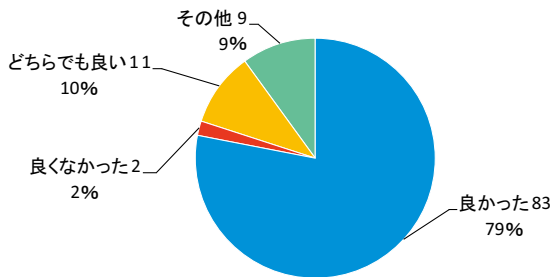
た。クラスターの基準を軽減してほしい。保育園は感染するとすぐ 5 人以上になってしまうため。

- 検査結果が開園時間外になるため、連絡方法が個人携帯となっていたことや早朝や夕方の合同保育により、濃厚接触者が、クラス外にも出たことで、何度も同じ園児が濃厚接触者となってしまう、保護者の負担が増えてしまった。休園後は、極力クラス保育を行うが、職員が足りない、休園が決定してからは給食の食材の中止などが大変だった。保健所から、保護者への書類などが間違っていたり、遅かったりして、問い合わせがあるが、園は関与していないため、返答に困った。
- 健康観察期間の取り扱いについて、保護者に理解してもらうのが難しかった。
- 休園ではなく、クラス閉鎖になった時、園は開園しているので、職員の確保が難しくなる。管理職や、役職が待機対象になった時、現場を統括する職員の負担が大きくなる（申し訳ない）

【考察】 各所（園）でマスク着用、消毒、パーテーション設置等感染予防に日々一生懸命努めておられ、苦慮されている様子がわかる。予防策や感染者が出た時の対応について保護者に理解をいただくことは、保護者の考えや背景の違いがあり、共通した難しい課題であると考えられる。職員の過重労働、夜間や休日にも及ぶPCR検査、休園対応等肉体的、精神的にも疲労が蓄積している現状。一日も早く新型コロナ感染症が収束に向かい、検査や休園の基準等見直しがされることを期待する。

### Ⅲ コロナ禍の研修のあり方について

#### (1) 令和 3 年度の本会の研修会は全てオンラインで行いましたが、どう思われましたか。



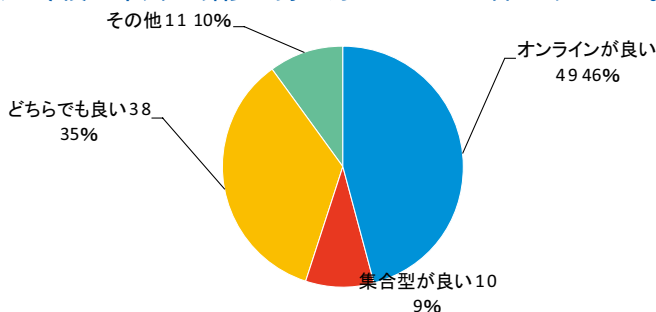
(その他)

- オンラインはよかったが、やはり、参加型の研修のほうが良い
- 感染対策としてはしょうがないと思う
- 実技や集合形式、小集団でのワーク形式でもできればあるといいと思った
- ライブの良さもあると思う反面、保育中の移動時間短縮、時間内視聴、全国の著名な方と沢山の職員でつながることができ、良いことの方が多かった

#### (2) (1)の理由をお答えください。

- 移動の時間がないので参加しやすい。 ・ 期間があることで複数で参加できた。
- 複数の職員と研修ができて学び合えるし、園内研修として位置づけ、研修を職員全体で受けることで学びの共有ができた。
- 感染の不安を感じることもなかったし、講演のなかでわからなかったところは繰り返し巻き戻して見ることができた。
- 職務を離れて、研修の場に行くことも気分転換やストレス発散・新たな気づき学びにつながる。
- 他者の意見や考えを聞く機会がないので、研修主自身の理解や習熟度が客観視できないし、気づきにつながりにくい。また、講師もダイレクトな反応が得られず、やりづらいのではと思う。
- 配信期間をもっと長く設定して欲しい。研修の時間を確保するように人員配置をするが、急なシフト変更など不測の事態が起きた場合に研修を受けられなくなってしまうので、幅を持たせて欲しい。
- グループ討議は、オンラインではない方が良かったと思った。
- いつもビデオやマイクをオフにしているが、時にはお互い顔を見せ合ってやりとりすることもあって良いのではと思う。高名で、遠くまでいかないと会えないような講師さんのお話を園内で聴くことができるなんてすごいと思う。

#### (3) 今後の本会の研修の持ち方についてお答えください。



(その他)

- オンラインでもいろいろな形式を模索していく 可能なら感染拡大の合間を縫って集合形式も行っていく
- オンラインとサテライト会場の選択ができたらありがたい
- オンラインと集合型の混在型

#### (4) (3)の理由をお答えください。

- ゆっくりと確認、振り返りながら研修を受けることができる。感染リスクがないので、研修に参加したことで、園に迷惑をかけないですむし、感染を恐れる職員にとっては、この方法が一番安全。

- ・やはりその場で講師の熱意を感じたり、園内だと集中できなかったりする。
- ・集中して研修を受ける環境がなく、途中で何度も中断してしまう。
- ・やはり、意見交換を重視した研修会は、小集団でも良いので、お互いの顔を見合っただけの研修会の方が良いと思う。講義だけなら、オンライン研修の方が良いと思う。
- ・キャリアアップの単位を獲得すべきものは集合型のほうが学びが深いと感じる。オンラインは一方通行であったり、うまく接続できなかったりまだまだ課題があるかと思う。

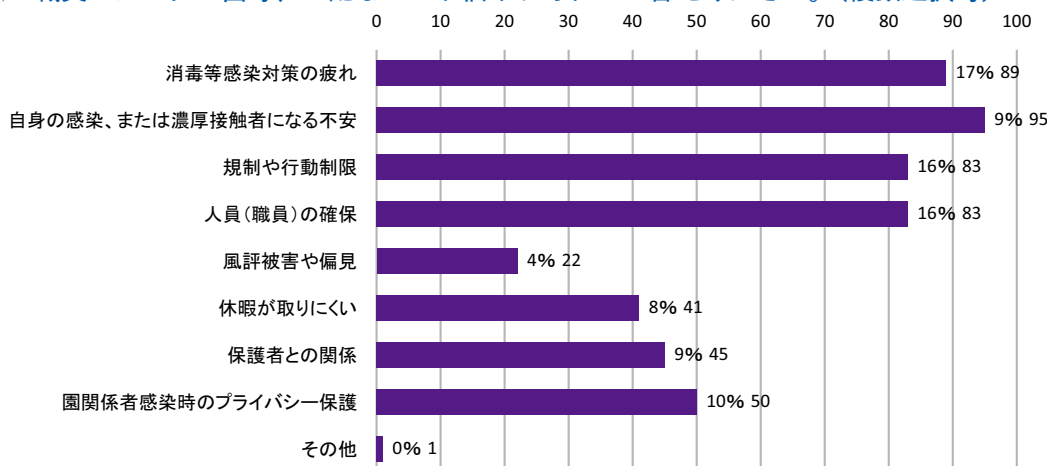
(5) 貴園で研修や園内研修、公開保育等で工夫をされたことがあればお答えください。

- ・視聴期間の長いWEB研修であれば、複数の職員が分散して研修を行った。
- ・会議時間を減らすために、あらかじめレポートを提出する。 ・ビデオを撮って公開保育を見る。
- ・研修内容の厳選 ・研修時間短縮のための事前の資料配布・小グループでの開催等。
- ・外部講師を呼ばず、園長が行ったりDVDを活用し、共通の理解を深めた。
- ・事前に会議がスムーズにいくよう資料を配布、書き込み、ポストイットの活用。
- ・正規職員全員が公開保育をすることで、クラス課題や子どもの興味に沿った保育を見直すことができた。

【考察】 オンライン研修が良かったとの多数の意見があった。コロナ禍をきっかけに取り組んだ新たな気づきであり、これからも実践されるであろう。しかし、その良さを十分理解しつつも、やはり対面・集合形式の研修を望む声も多い。直に感じる場の雰囲気からの学びも多いのだと考えられる。

#### IV 職員のメンタル等について

(1) 職員のメンタル面等、心配なことや悩みがあればお答えください。(複数選択可)



(その他)

- ・保護者の玄関対応・分散保育等、限られた職員の数で実施するになったり、業務や時間外が増えた。また、休暇をとる職員数に限りがある。

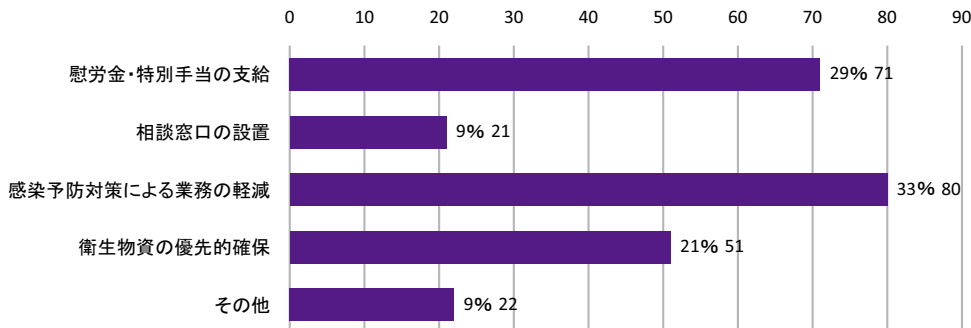
(2) (1)で回答したことを詳しくお答えください。

- ・やはり自分が子どもたちに感染させ、休園になり、園、保護者に迷惑をかけることへの不安がとても大きい。
- ・消毒や保育士の家族の関係で休まないといけなことが多々あり、職員不足になり大変だった。早番、遅番の時の合同保育をしないと言われても、その時だけの職員の確保は難しく結局保育士に負担が重くのしかかる。
- ・感染対策の長期化による継続維持の難しさ、対策の方針に合わせ、対応を変えていくことの難しさを感じた。
- ・いつ感染者が出るのか…常に不安に思うことがある。いつ保護者から連絡があるのか…と休日も休まらない。マスク着用に関して理解をしてくださらない保護者があり、保護者間のトラブルがあった。
- ・コロナ禍で、消毒だけでなく玄関対応や早朝・延長時間もなるべくクラス別保育を実施するなどにより業務が増え、超過勤務が増えた。職員の疲労感が増している。
- ・真面目に取り組む職員ばかりで、責任感から疲弊している。自分が感染しないよう常に努力している。
- ・保育の見直しに加え、消毒業務、分散保育のため勤務体系の疲労。
- ・感染予防対策として、玩具・遊具・環境などその都度消毒をしないといけないため日々の業務の時間の確保が難しい。
- ・職員自身、感染予防対策をしても日々子どもたちと密に接したり、低年齢の子どもたちはマスクをしたりすることが難しいため、感染するリスクは高いという心配。職員自身が濃厚接触者になると勤務できなかったり、家族がPCR検査対象になったら結果が出るまで自宅待機しないといけないため、職員の人

数の確保が厳しい。

- いつ新型コロナウイルスが収束するかわからない状況下で、クラスター・感染防止のため気を抜くことができない。私生活でも行動規制を自主的に行いみんながストレスがたまっていた。
- 平常勤務に加えて消毒や、濃厚接触になったら欠勤もあり、過重労働になりがちだった。
- コロナ感染以上に園に対する誹謗中傷等、人的被害の方が大きい。

(3) 職員のメンタル面等の救済について、国や自治体に望むことをお答えください。(複数回答可)



(その他)

- AIを活用してできることを取り組む。
- withコロナに向けての規制の緩和。(子どもが伸び伸びと様々な経験ができるように)
- 慰労金や特別手当もありがたいが、職員が体調不良や出勤停止になった場合に気兼ねなく休めるような余裕のある人員配置となるよう、配置基準の見直しも検討して欲しい。
- 感染対策要員等で、人を増やしてもらえば、時間外労働も減る。また、休暇も取りやすく、肉体的にも精神的にも疲労が軽減できる。
- 早くコロナ治療薬を作って使用に向けてほしい。
- 清掃業者委託できるよう支援してほしい。
- 余裕のある人員配置、柔軟な人員確保。

## V その他

「コロナ禍の保育」で見えてきた学び、現場が元気になるメッセージなど、自由にご記入ください。

- コロナで閉園になった時、保護者に対しては「申し訳ありません」ではなく「ご協力ありがとうございます」という気持ちを持ちましょう。コロナ感染は、悪いことではありません。ほとんど、風邪のようなものです。一刻も早く、新型コロナウイルスが2類から、インフルエンザ並みの5類になることを期待しましょう!!
- できないではなく、「こうしたらできる」と工夫する保育。
- 今ならできる、今だからできる、今こそ実行する。内容、視点を変えて客観的に見ると、意外にも良かったと思えることがありました。実りのある時間となるように。
- 行事や保育内容を見直すにあたり、子どもたちの育ちの保障や中止ではなくどう行事ができるのかを本当に話し合ってきた。そこで保育者等の発想の柔軟さ、切り替えのうまさを感じた。また自由に保育できる日を願って頑張りましょう。
- 分断が進み、交流が断ち切られる社会情勢やマスク着用が子どもに及ぼす影響が、きちんと検証され、対策が講じられ、のびのびとした人間性や生活が取り戻せることを願っています。
- withコロナで感染対策を続けていることで、子どもも職員も感染対策、衛生面への意識は高まっている。マスク姿で写真に映るコロナ禍を生きる子どもたち。「マスクしてたな。対策してたな。」と、思い出話として話せる日が来るのを信じて、コロナ禍でも、工夫しながら楽しい保育を実践していきたい。
- コロナでできないことがたくさんあったけど、いろいろな視点で考えること、知恵を合わせること、メディア機器を使うこと、みんなで力を合わせると楽しいことができました。そして一人一人の能力の発揮も見えて発見も多かったです。新しい保育を作る一歩として進化していけたら保育はますます楽しくなると思います。
- 「つながりあうこと」
- コロナ禍を経験し、子どもたちにとって重要なことは？何からできるか？を考え、みんなで試行錯誤するようになった。従来どおりの行事の持ち方を柔軟に考えたり、変化させたりすることの判断やフットワークが軽くなった……結果、大変ではあったが園内で充実した保育となり、職員も楽しく、子どもの主体性にもつながりつつある。今後も、前を向いて頑張りたい。
- 子どもの育ちは立ち止まれない。過剰になることがないように、しかし、根拠に基づいた感染対策を行いながら保育者として大切なことを決して見失わないこと。
- 当たり前が当たり前であることのありがたさを痛感した。笑顔の持つ力、歌が歌える喜び、人のぬくもり等の素晴らしさを再確認した。





大正保育園 園長  
乾 京子  
(いぬい きょうこ)氏  
所在地：鳥取市徳尾 134-1  
定員：130名

— 第13回 くらふと広報誌からの保育園紹介 —  
**社会福祉法人 さとに会 大正保育園**

日本で初めてNHKがテレビ放送を開始した昭和28年、大正村立大正保育園が創立されました。その後鳥取市への合併により鳥取市立大正保育園と改称。平成25年からは、鳥取市の委託を受け、さとに会が運営してきました。今年度で開園70年を迎えた大正保育園を譲渡していただき、歴史と伝統を受け継ぎながら、地域に貢献できる園を目指して歩んでいます。

**<さとに会 保育理念>**

愛がいっぱい 笑顔あふれる保育園

**<さとに会 基本方針>**

- ・常に利用者の立場に立ってニーズに応え、サービスの向上に努めます。
- ・一人ひとりの人格を尊重し、お互いの信頼関係をよりよく構築します。
- ・地域、自然、人との関わりのなかで豊かな人間性の育成を目指します。

**<さとに会 目指すこども像>**

- ・明るく活発で元気な子ども
- ・親切で友だちと仲良くする子ども
- ・よく考えて行動する子ども

**<大正保育園 保育目標>**

- ・基本的な生活習慣を身につける
- ・色々な経験を通し主体的に遊び豊かな心を育む
- ・人との関わりの中で互いの違いや良さに気づき認め合う心を育む
- ・食への関心を育む



社会福祉法人さとに会大正保育園は、平成25年4月に鳥取市の公設民営として鳥取駅よりほど近い大正地域に建てられました。未満児クラスがゆったりと遊ぶことができる中庭と、以上児が力いっぱい走ることができる園庭があり、戸外遊びを十分に楽しんでいます。また、園児のおじいちゃんと一緒に一から作った畑では、子どもたちが毎年菜園活動に参加し、夏にはタマネギが、秋にはサツマイモを収穫しています。現在はコロナ禍でクッキングはできていませんが、給食で天ぷらなどにしてもらい素材の味に触れています。

今年度はコロナの影響を受け行事の中止や縮小などを余儀なくされましたが、今後はまた以前のように地域・保護者の方を招いて、にぎやかで温かい雰囲気の中で行事を楽しめるようにしていきたいと思っています。



自分たちで水やりや草取りをして…



収穫の喜びを感じて…



給食でいただきます！

## 園を知る 3 つのポイント

### ① 地域・保護者とともに

大正保育園は、鳥取市の有名なパン屋さん「亀井堂」さんを始め、大正郵便局や大正小学校・高草中学校に囲まれています。

コロナ禍で行事が中止・縮小するなかで、今年度は亀井堂さんや大正郵便局さんにご協力をいただき、地域探検を楽しみました。また、コロナ禍で保育が見えづらい今、連絡帳アプリを利用し保護者の方に写真とともにお子さんの園での様子をお伝えし、喜んでいただいています。



ほくがまめくんだよ♪保育園の人気者なの♡



まめくん いつまでも元気でいてね☆

### ② 命を大切にする保育

大正保育園には、黒い大きな目がチャームポイントのうさぎ「まめくん」がいます。普段は事務室に在籍し、職員の仕事ぶりを監督しています。(体を伸ばしてのんきにお昼寝したり、大好きな野菜やおやつをもらってもぐもぐと食べたりしていることも多いですが…) まめくんのお世話は年長組の仕事！お世話の最後には「まめくん大好きだよ♡」「たくさん食べて大きくなってね！」と温かい声をかけてくれます。まめくんの存在やお世話を通して子どもたちが命の尊さや温もりを肌で感じて成長していけるように願っています。

### ③ 主体的な保育～大好きな友だち・先生といっしょに～

園の研究テーマである、子どもたちの「やってみたい、おもしろそう」を大切に保育の展開をしています。自分でしたいこと(遊び)を見つけて、方法を考えて達成していけるように、保育士は見守ったり一緒に考えたりする仲間の一人です。子どもたちが主体的に意欲的にいろんなことにチャレンジできるようなワクワクする環境作りを力を入れています。

色水でペットボトルをいっぱいにするんだ♪

氷に穴が開いたよ☆冷たくてツルツルしてる！



水の動きっておもしろいな～！



先生が風船で作ってくれたよ！





# 各研修会報告

## 主任保育士研修会

うつぶき保育園 山本 裕美

主任保育士研修会が12月2日(金)倉吉未来中心にて参集開催で行われました。「しかえし」から「なかなかおり」へ、幼児期からのいじめ防止をテーマに大阪教育大学教育学部教授 戸田有一先生に講演をしていただきました。コロナ禍の研修でありましたが当日はスマートフォンによるリアルタイムアンケート方式を用いられることで参加者とコミュニケーションをとり、会場の生の声を拾われながら楽しく講演をしていただきました。

「いじめ」と考えると命に関わる重大事案が問題になることも多々あり構えてしまいがちですが、幼児期において「いざこざ」という視点でみていくと日々の保育の中でも多く見られ身近なものになります。このいざこざをしっかりと保育者が受けとめ、丁寧に対応

していくことが子どもたちの自己解決力を育てることにつながり、その力が将来的ないじめの防止にとても大きな役割を持つということと話されました。いざこざの対応については、事例を用いながら話していただきました。保育者の関わりとして、やったことの実確認など子どもとしっかり対話をする①が重要であり②おくち、いおうね③ごめんねという3つの言葉のポイントに、修復的対話の経験を増やしていくことが大切になるそうです。またその背景には家庭環境が大きく関わってくるケースもあるため、対応は担任保育士のみで行うのではなく、状況によっては園長や前年度の担任、指導主事などが対応すると良いことをお話いただきました。またその経験を増やすため3歳児クラスにおいて4月から段々とおもちゃを減らしていきわざといざこざが起きるよう設定していく環境作りもアドバイスいただきました。

いじめを許さない!とするのではなく、どんな小さないじめやいざこざも絶対に見逃さないという意識を持ち、クラス・担任だけの問題としてではなく、園全体の問題として徹底的に拾って対応していくことが子どもたちの自己解決力を育てることにつながります。またそういった私たち保育士の丁寧な関わりこそが一番の子どもたちの心の育ちの学びとなることを改めて感じました。子どもたちの心の育ちを大切にしたい保育を今後も考えていきたいと思えます。



戸田教授

## 第2回食育研修会

松保保育園 澤 恵

第2回食育研修会が12月9日か

ら13日までオンラインで開催されました。講師を株式会社サカノプロス代表取締役社長 スポーツ栄養士 南部真也先生にお願いし、「家庭に届けたいホントの食育」と題してご講演いただきました。

南部先生はスポーツを頑張る人たちが「食べることに活動がさされてい、まずはどんなテクニクを身につけよう」としても土台(受け皿)がきちんとしていなければ壊れていくので、子どもと食に向き合うことが大切であるとテーマにあげられました。他の人と食べる食事が心のゆとりにつながり、食卓がある心と余裕ができます。しかし近年食育に向き合う時間が減ってゆっくりと食卓に向き合う時間が取れないというのが問題点にあがっています。そこで南部先生が提案されるのが、ごはんとおかず4です。なぜお米なのかというと、①栄養バランスをコントロールしやすい(脂質が少)②どんなおかずにも合わせやすい③胃腸の強化。それでは、なぜ具沢山のみそ汁なのかというと、①た



南部先生

んばく質の利用効率アップ②具沢山にすることで栄養レベルアップ③胃腸をケアすることにつながるのです。このことで①調理時間は短縮され②基準ができる③習慣化が簡単になり④子どもの食べる力が育ちます。そして一番のポイントが、3日に1回、目指せ打率3割バッターなのです。毎日頑張りなさいと言われると始める前から構えてしまうのですが、3日に1回なら無理なくできそうで、保護者の方にも進めていけると思えます。我が保育園でも、里芋の煮物は苦手でも豚汁などに入った里芋なら食べられるという傾向があり、子どもたちにも保護者にも嬉しいアドバイスだと思います。また、お米を食べることにより、スポーツにもつながってくる噛む力

がつきます。子どもたちの未来を支える体作りを食べるものでもしっかり伝えていけるように、発信していきたいです。

## 第2回乳児保育研修会

名和さくらの丘保育園 青木 愛実

12月16日(金)～12月20日(火)を配信期間として第2回乳児保育研修会が開催されました。講師に鳥取短期大学幼児教育保育学科教授 國本真吾先生をお迎えし、『保育における発達支援の手がかりを探る』と題しご講演いただきました。

子どもの行動の中にかみつきという行動だけに目を向ける形だと行動を鎮めるための対処法を求めがちになってしまいが、どうしてなぜこういった行動をするのかという、子ども理解の視点が大切であるという冒頭のお話から、実際に自分のクラスを振り返りました。子どもの行動の背景にある理由を「受容」「共感」することで子どもの味方となれるような視点を持つことをもっと意識してい

なくてはいけないと考えさせられました。

保育における発達の視点の再確認の章では、発達というところや縦の成長をイメージしてしまいうことがありますが、できていることを認め、縦の発達だけでなく豊かな考え方を身につけることができませんでした。また、月齢にとらわれない修正月例の見方は、実際に自分自身が低出生体重児を出産したことだと思いと重なるところがありました。修正月齢での見方で発達を見守り援助していただくことができなくなりました。低出生体重児や障がい児理解への見方としてとても重要であることを学ぶことができました。その見方を知っているだけで子どもへの理解がかわってくるのだと感じました。

乳幼児の愛着形成をめぐっての章と次の章の配慮・支援を要する子どもに關しての内容とともに愛着の重要性が伝わる内容で、印象に残ったことが二つありました。一つ目は発達障がい児が増えていくという事です。その背景として、愛着形成の欠如での反応性愛



國本教授

着障害と脱抑制型対人交流障害の二つの障がいの種類を知りました。乳児期の愛着が形成されていれば防ぐことのできる障がいなので、乳幼児期に關わる人間として愛着の基盤となれるように意識して子どもたちと関わっていきたく感じました。また、二つ目は幼児期の終わりまでに育ててほしい姿は到達目標ではないということ。当たり前と思っていることに、この子の発達や環境様々な姿など考慮し、この当たり前はどうかの疑問視点の重要性を知りました。できることを求めてしまいがちななってしまいが、できることより子どもにとってほしいことをもっと体験できるように保育士が環境を設定していきたく考えました。冒頭のかみつきのお話から、か

みつきの理由やきっかけ、内面的な部分をくみ取ることのできる存在になっていけたらと思います。子どもたちの頑張りや、努力を認め、内面を読み取る努力を続けていこうと感じました。

### 初任・初級保育士 研修会②、③

北条みどりこども園 前田 侑子

10月25日に行われました研修会②では研修会①の研修を受け、自分たちで決めたテーマでそれぞれ写真を撮りグループに分かれてディスカッションをしていきました。一人一人の先生が自分のテーマを基に目の前の子どもと向き合い、その子の姿から感じたことや育ちや姿の変容などを丁寧に見取り発表する姿がありました。グループディスカッション後、参加者全体で他のグループの発表も聞き、また違った気づきや子どもの姿のとらえなどの発見があったことと思います。

研修会③では、参加者同士直接ディスカッションできることを楽

しみにしていました。コロナの影響を受け、Zoom開催となりました。皆さんの個性豊かなドキュメンテーションを見てどんな語り合いがされていくのかとても楽しみでした。自分の思いや気づきを語り、それをグループ内で共有する姿が見られ、個々が日々真剣に子どもと向き合ったりいろいろな姿を楽しみながら保育をしていることが伝わってきました。保育者同士が主体的に対話的に語りあい、そこから気づきや発見をする姿を見てまさに往還型だからこそその姿だと感じました。川辺尚子先生（保育のデザイン研究所）の講評では、往還型研修の意義や写真を通して伝えられること、記録として伝えたい内容によってできるいろいろなまとめ方を実際参加者が作ったものをもとに教えていただきました。

研修会②、③の研修を通して感じたのが、参加された先生方の目の前の子どもに全力で向き合う姿勢や保育への思いの熱さです。いろいろなことに疑問を持ち、それを素直に相談し、またそれに対し自分の意見や心がけていることな

ど話をしている姿を見て、自分も初任の時に参加し、いろいろなことを語り合いたかったと思います。研修は終わりましたが保育はこれからも続いていきます。今回学んだことや感じたことを活かして明日からの保育を楽しんで欲しいと思いました。



川辺先生

### 第2回施設長研修会

西郷保育園(倉吉) 岩田 育子

第2回施設長研修会が、1月27日(金)にオンラインで開催されました。第1回施設長研修会に続き、講師を保育の安全研究・教育センター代表理事 掛札逸美先生にお願ひし、「保育の価値、子ども

新年度に向けて」と題してご講演いただきました。

最近の社会問題にもなっている保育園等で実際に起こっている誤嚥窒息事故、送迎車両での取り返し閉じ込め(熱中症)死亡事故等の事例も含め、事故予防や安全管理、保護者対応等についてお話を聞くことができました。私たちが今、保育現場で困ったり迷っていることの解決へのヒントをたくさんいただいたように思います。

新年度が近づきました新たな保護者との出会いがあります。信頼関係は築こうとして築けるものではなく、日々のコミュニケーションを大切にしていくのはもちろんのこと、不信感を抱かせないことが大切であることを改めて学びました。最初に不信感を持たせてしまうとマイナスの面ばかりを見てしまう、それを信頼感に変えていくのは難しいので、不信感を生まない持たせないことに園全体で心がけていきたいと思いました。

保護者の中にも温度差・個人差があり、不安感が強い人もいればそうでない人もいます。それを理解したうえで、保護者一人ひとり





掛札先生

に寄り添った丁寧なかかわりに心がけていきたいと思いました。

今回の学びを職員間で共有し、研修の演題にもある「保育の価値、子どもの命、職員の心と仕事」が守られ、安心で安全な保育園であるよう今後も努めていきたいと思いました。

そのためにも、園内でのコミュニケーションを大切にし、「おかし」「わからない」と思ったらしのままにするのではなく、聞くことができる職員集団でありたいと思えました。園内でのコミュニケーションが成り立たなかったら、安全は確保できない・・・この言葉をしっかりと心に留めて、今後日々の保育に努めていきたいと思えます。

## 令和 5 年度 研修等計画

期 日	事 業 名	場 所	備 考
4月18日(火)	監事会	鳥取市 福祉人材研修センター	
5月10日(水)	第1回理事会	鳥取市 福祉人材研修センター	
5月25日(木)	代議員会、第2回理事会	倉吉市 倉吉未来中心	
5月25日(木)	第1回施設長研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
6月12日(月)	第3回理事会	未定	
6月14日(水)～16日(金)	全国私立保育研究大会	徳島県徳島市	全国私立保育連盟
6月	第1回食育研修会	未定	
7月25日(火)～26日(水)	中国地区保育研究大会	岡山県岡山市	中国地区保育協議会
8月4日(金)	主任保育士研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
8月25日(金)	保育士研修会	WEB	
8月	第1回障がい児保育研修会	WEB	
8月	第1回乳児保育研修会	WEB	
10月22日(月)～23日(火)	創立60周年記念研修大会	東京都	日本保育協会
10月	第2回施設長研修会	未定	
11月16日(木)～17日(金)	全国保育研究大会	大分県別府市	全国保育協議会
11月30日(木)～12月1日(金)	日本保育協会中国・四国ブロック研修会	島根県松江市	日本保育協会中国・四国ブロック
11月	第2回食育研修会	未定	
1月14日(日)	第67回鳥取県保育推進研究大会	倉吉市 倉吉未来中心	
未定	初任・初級保育士研修会		
未定	第2回障がい児保育研修会		
未定	第2回乳児保育研修会		
未定	中国地区保育協議会人材養成研修会		中国地区保育協議会
未定	全国私立保育連盟中国・四国ブロック研修会		全国私立保育連盟中国・四国ブロック

\* 期日及び内容、開催方法については、変更となることがありますので御了承ください。

## うっちー先生のえほんばなし⑨

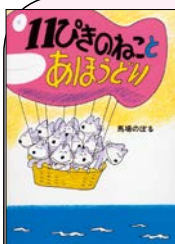
突然ですが、あなたは猫派ですか？犬派ですか？私は断然『猫』!!犬派の皆様、動物好きの皆様には申し訳ありませんが、今回は猫!ねこ!ネコ!私が読む猫絵本紹介特集いってみるニャ♪

### 絵本紹介⑭

『100まんびきのねこ』ワnda・ガアグ=文/絵 いしいもこ=訳 (1961年/福音館書店)

おじいさんとおばあさんが猫を飼うために探しに行き、100万匹の猫と出会います。その中から1匹を選びきれません。そこで、猫たちに決めさせようと思しますが、大変なことになりました。

白黒で描かれていますが、100万匹の猫たちにはそれぞれ色がついているように見えてくる。絵の力はすごい。ちなみに、こちらは日本で発行された最古の横長絵本。先日ご逝去された松居直氏が発行を決定しなければ、その後『ぐりとぐら』『はじめてのおつかい』(福音館書店)は今の版型で生まれていなかったかもしれません。



『11びきのねことあほうどり』馬場のぼる=作 (1972年/こぐま社)

コロッケ屋をはじめた11びきのねこ。大人気のお店でしたが、だんだんに売れ残るようになり…余り物のコロッケを食べる日々。「コロッケ以外の物が食べたい。鳥の丸焼きが食べたい。」と思っていたところにあほうどりがやってきました。大量捕獲を夢見て旅をするねことあほうどりの珍道中と大逆転。

11びきのねこシリーズ6冊中2作品目ですが、これが一番好きです。何と言ってもコロッケが旨そう!!子どもの頃家で食べていたコロッケとそっくりという思い出補正が働いて選書しました。

### 絵本紹介⑮

### 絵本紹介⑯

『ねこのおしやさん』ますだゆうこ=文 あべ弘士=絵 (2008年/そうえん社)

「ねこねこねこ〜のおしやさん〜♪」耳に残る楽しい歌とともに猫のお医者さんが「ニャー!!」と気合とダジャレで患者の悩みを一発治療!!

ケロポンズの増田氏が手掛ける有名なパネルシアターの絵本版。絵は旭山動物園飼育員出身あべ弘士氏が描いています。ケロポンズのパネルシアター動画再生回数は4000万回以上。映像で楽しむ、パネルシアターのギミックで楽しむのも良いけど、動きの少ない絵本だからこそその楽しさがあると思います。



### 絵本紹介⑰



『ねこのピート だいすきなしろいくつ』

エリック・リトウイン=作 ジェームス・ディーネ=絵 大友剛=訳 長谷川義史=文字画 (2013年/ひさかたチャイルド) ポジティブシンキングな猫のピートと一緒に絵本を読めば、前向きで楽しい気分になる!だって、ピートのポジティブは並大抵ではありませんから。【何があっても進んでこ!】

数年前に『ねこのピート』を日本に連れてきたギャラリー〈GALLERY KISSA〉に行きました。その時はまだまだ知る人ぞ知る存在でしたが、こんなに人気者になるとはうれしいなあ!ただいまシリーズ5冊刊行中■

### 絵本紹介⑱

『ねこはるすばん』町田尚子=作 (2020年/ほるぷ出版)

猫は人間が出かけて行ったあと、[留守番しながらこんな1日を送っている]という見えないところを見る想像で創造の物語。人間のような生活を送る猫の留守番。ダンスの中から外の世界へ。

本当の猫はこんなことしないでしょ!と思うような内容ですが、私の身近に猫がやってきてからは…、猫って人間がいない時こんな風に過ごしているのかもしれないと思わせる、猫の特性、行動、性格を的確に捉えて描かれています。



2022年度夏に職場の敷地内で瀕死の猫を助け、保護猫として我が家で生活していました(現在親族の家に居候中)。猫は良いですね。猫の習性である『ソンドレ』が魅力のひとつ。

2022年2月22日というスーパー猫の日から1年が経ちましたが、まだまだ猫絵本の世界は広がっています。

猫と人間の歴史、猫の魅力、まだまだ紹介しきれない猫絵本の数々。今回選んだのは擬人化された絵本が多かったな。岩合光昭氏の写真絵本や猫の描写が美しい絵本なども紹介したい!

猫絵本専門士うっちー先生の猫絵本旅は、これからもまだまだ続く…ニャ。



# 令和4年度 鳥取県子ども家庭

## 育み協会会長表彰

ご受賞おめでとうございます

氏名	所 属	役 職 名
安部 春菜	浜坂保育園	保 育 士
恩田 純子	向山保育園	保 育 士
景山 寛子	白兔保育園	保 育 士
桑村 文	鳥取あすなる保育園	主任 保育士
小梅川 彩	あがた保育園	主 任
中村 千絵美	かんろ保育園	保 育 士 長
濱本 友紀	認定こども園 鳥取みどり園	保 育 教 諭
松浦 美保子	白兔保育園	主任 保育士
森本 真紀	浜坂保育園	保 育 士
矢倉 亜耶子	淀江どんぐりこども園	主 任
山口 典子	むつみ保育園	保 育 士 長
山根 京子	めぐみ保育園 (鳥取)	保 育 士 長

(敬称略・五十音順)

### 祝 大橋和久会長 叙勲〈瑞宝单光章〉を受章

「永年にわたり教育・保育にご尽力いただき心より感謝申し上げます。」



2023年、穏やかに年が明けました。今年の干支が「卯」ということで鳥取市の白兔神社は初詣の人で大賑わいだったようですが、私は2日の夕方に行ったので、ゆったりとお参りすることができました。うさぎ年にあやかり、今年が飛躍の年となりますよう祈念いたします。

今年もコロナ対応のため、オンライン研修・WEB会議が中心でしたが、「くらぶと」を2回発行することができました。園紹介や各研修会報告等でご寄稿いただいた先生方、「うちー先生のえほんばなし」を連載いただいた内田先生、ご協力いただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。(M・K)

2022サッカーワールドカップは、日本サッカーが世界に肩を並べるレベルに上がってきた試合を目の当たりにし夢を見させてもらった。選手たちが日本のみならず、国外で「挑戦と経験」を重ね自分の夢を実現する姿を見て、次世代の子ども達も「夢」を花開かせた姿を思い描いた。保育はその子どもたちに関わる素敵な仕事だが、保育を通して私たちに出来ることは何か考えた。やはり子どもはわくわくやってみたい気持ちを持ち取らないよう、「夢」をもって挑戦していけるような時間を子どもたちと共に作っていくことだと感じた。私も子どもの将来に想いを馳せながら子どもたちの成長を見守っていこう。(K・I)

昨年12月の主任保育士研修会は本年度初めての参集型開催となりました。初めてお目にかかる方ばかりで「やっと会えましたね」が第一声でした。不慣れないことばかりで、皆さんのお力を借りながらでしたが大変貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございます。(N・F)

侵入に始まり、物価高騰、7波に8波、そして不適切と、「まとも」には程遠い1年だったかもしれないが、皆自分の居場所を精一杯頑張ってきたことと思います。私もできる範囲で頑張り、何とか任期を終えることができそうです。部員の皆さま、大変お世話になりました。ありがとうございます。(K・K)

最近、腸活という言葉が良く耳にする。お店にも腸活で免疫力を付けるなど多様な商品も目にする。気になり腸活の本を手にとってみた。腸は脳と繋がっており、幸せホルモン、セロトニンは腸で作られ、心にも影響しているなど書かれていた。医学は進み、知らない事ばかり！また、知人たちはSNSのインスタなどを多彩に使いこなしている。ここでも、私の知識不足を痛感する。これからも、何事にも学びを深めて行きたいと思う今日この頃である。一年間ありがとうございました。(N・K)

ダイエット中だがラーメンが食べたい。長らく我慢してきたが限界が近い。そんな時にチートデイなるものを知った。好きな物を食べてもいい日らしい。現在週3日でチートデイを設けている。なぜか体重は減る気配がない。(T)